会議録（令和６年度　第２回　江府町図書館協議会）

日時：令和６年１２月２６日（木）　１０時～１２時
場所：江府町防災・情報センター（愛ベルこうふ）
２階　研修室

＜会議出席者＞

【委　員】６名（欠席者３名）

会長：前川仁三夫　副会長：森田哲也

委員：道下隆秀　山本育朗　奥田尚子　小林隆志（鳥取県立図書館）

【事務局】８名

図書館：（館長）宇田川恵理

（職員）道下三知子　長岡圭子　加持谷智子　加藤絵梨香　篠田信子　梅林恵理　松本幸江

１．開会

２．報告

（１）江府町立図書館の現況について

●令和６年度貸出状況について

（事務局）年齢別貸出、月別利用について前年度の同時期と比較。中高生年代の利用が減少しているが４０～５０代を中心に、大人の利用が増加している。分類別に見ると、４０代では技術、芸術、児童書や絵本などの増加が顕著で、技術には、料理・手工芸、芸術には漫画が含まれる。児童書や絵本は、子どものための利用かと思われる。５０代でも、絵本の貸出が多い。６０～７０代では、雑誌の利用が増加した。この年代の女性に合わせた雑誌を新しく入れたのも利用増につながったのではないか。夏休み開始以降の全体の貸出冊数が増加しており、作年度よりも貸出冊数が増えると思われる。

●館外貸出について

（事務局）出張貸出を役場、福祉センターで実施。施設貸出は江美の郷、あやめ、明道館、ないろサロン、子供の国保育園へ、本を置かせてもらう形で実施している。役場での出張貸出は１５回実施し、昨年度に比べて利用減。利用者増に向け、声掛けなどの必要を感じている。

福祉センターの利用も減っている。診療所へ来る方の利用は少ないが、会話をすることはあり図書館の存在を知らせる草の根の活動としていきたい。選書、声掛け、並べ方、SNS 発信など工夫して今後の利用につなげていきたい。保育園への貸出については、保育園側から、保護者に利用してもらいたいという依頼があり１０月末より置いている。貸出にはつながっていないが、参観日など保護者の集まるときに、利用を呼びかけられたらと考えている。江美の郷・あやめ・明道館・ないろサロンについては、利用状況を見ながら選書している。ないろサロンについては、管轄する産業建設課より依頼があり、昨年度より図書館の本を設置している。

●主催イベント、研修、展示について

（事務局）「おはなし会」「ものづくり」の定期開催イベントは例年通り行っている。保育園での「英語で遊ぼう」は、昨年まで地域おこし協力隊が取り組んでいたものを、今年度からは図書館職員が引き継いで参加している。不定期開催のイベントとして、今年度初めて図書館まつりで、マルシェを

開催、好評を博した。

展示については、2階のスペースに月替わり展示を新しく設置した。１０月に江府町戦争遺品展を実施したところ、江府町遺族会の方から、来年度も実施してほしいと声をかけていただいた。住民の作品展示もあり、前述のマルシェでの出店にもつながった。他団体との連携展示も行っており、今後も住民さんや、各種団体と連携して、館内での展示を実施していきたい。

広報として、ホームページに加え、SNS（インスタグラム）にイベントの広報・参加予約、開催済みイベント報告、図書館の紹介動画などを投稿している。

●地域おこし協力隊活動との連携について

（事務局）「町民と図書館をつなぐ活動」、「子ども向け読書支援活動」を２本柱として活動している。

「町民と図書館をつなぐ活動」として、大人向けのイベントを計画した。開催した珈琲講座、ボードゲーム大会、ともに初めての参加者もあり、楽しく参加していただいた。２月に、大人向けのおもちゃ作り講座、アイシングクッキー講座を計画中。また、館内でゆっくり過ごしてもらうために、1月以降に図書館友の会と連携して、コーヒーサーバーを設置することを計画している。

「子ども向け読書支援活動」としては、大型絵本を購入し、図書館、保育園でのおはなし会に活用している。また、赤ちゃんを連れて滞在しやすいよう、幼児向けのおもちゃを購入した。高齢者も含む利用者のために、紙芝居の購入も計画中である。

●カウンターから見た利用者のようすについて

（事務局）絵本の貸出が多い。子どもや孫のために借りたいという問い合わせもある。小説は時代小説がよく貸出に出ている。朗読、音楽 CD の貸出を始めたところ、興味を示されたり、問い合わせを受けたりすることが多い。

〇江府町立図書館の現況についての報告に対する質疑

（委　員）貸出統計の報告あったが、伸びていて良い。県立図書館でも４０代の利用が多い。しっかり利用を繋げていけたらよい。統計がコロナ禍前まで戻っているか、２０１９年と比べてみてはどうだろうか。

（事務局）統計を比較したが、コロナの影響が当館ではあまり感じらなかった。近年では２０１８年の利用が最も少なく、その後徐々に上がっている。２０２２年は工事が入り休館したので、少し落ちている。

（会　長）（コロナ前に）遡って比較した資料を作成してほしい。

（事務局）２０２１年ごろ、児童の利用が増えている。分類別に見ると、一般芸術で利用が増えているが、漫画の所蔵が増えた頃で、児童がよく写真集を借りていたように思うが、はっきりした理由はわからない。

（委　員）コロナ禍で他に行くところがないから、図書館に来ていたという可能性もあるのか。

（事務局）大人の貸出はあまり伸びておらず、子どもの貸出だけ伸びている。コロナの影響をあまり受けなかったのかとも思っている。その後、大人の利用が増えているのに対して、子どもの利用は落ちてきているので、そこを増やしていけたらと考えている。

（会　長）４０、５０代が増えていることに心当たりはあるか。また、この利用（者）は、働いている人なのだろうか。

（事務局）現役世代なので、働いている人ではないかと考える。まとめて借りて行かれる方が多い。

（委　員）まちづくりにつながることということで、展示など、町民のニーズに合わせていただいているな、と感想を持った。
（委　員）出張図書館は、借りる人は決まっているのか。
（事務局）大体決まっている。
（会　長）展示やイベントを忙しいスケジュールで実行している。これだけたくさんあるのは、すごいのではないか。
（委　員）頑張っている。館内もだが、館外へ出ているのはすごい。新規利用者を獲得しないと利用は増えない。役場ではどんな本が出ているのか。
（事務局）話題の本のほか、社会派の本、絵本も借りられる。
（委　員）他館では議会に対して、議員質問に合わせた本を持っていく事例がある。空き家対策、債権回収など公務員が使える本は、首長、教育長も興味を持つ。人間関係の本や公務員が使えそうな本が利用された。図書館に行けばある本を持っていくより、仕事の上で興味を引く本を持っていってはどうか。
（会　長）職場で必要な本、企業責任を果たすために必要な本などを提供することで、行政の質が高まるようなしかけが必要かもしれない。
（事務局）必要な時でないと利用につながらないので、４月にイベント的な拡大出張図書館として、持っていくのはいいかもしれない。
（委　員）インスタなど積極的に活用していてすごいと思うが、自分で見ないといけないものなので、その他で広報、周知はどのようにしているか。
（事務局）チラシはなかなか見てもらえないので、イベントについては、カウンターで対象者に直接声掛けをしている。
（委　員）防災無線の利用はないか。
（事務局）特別なイベントであれば図書館だより、防災無線も使っているが、定期開催のイベントは、防災無線までは使っていない。インスタ発信についてもまだ課題がある。
（委　員）町長のブログで紹介はされていないか。
（事務局）確認していない。
（委　員）図書館だよりにＱＲコードを載せては？
（事務局）９月にアカウントを開設したときに載せて、以降は載せていない。今後検討したい。
（会　長）どうやって住民みんなに届けるか、これから考えていかなければいけない。展示など、どんな思いで作っているか、作成者、関係者が話し、聞いてもらえる場所があれば、もっと気持ちが伝わるのではないか。
（事務局）住民さんの作品展示の数が、今年は去年に比べれば少なかった。もっと作品展示を呼び掛けていければと思っている。
（会　長）例えば町長ブログはアクセスが多いようなので、紹介してもらったらどうか。
（事務局）検討したい。２月には境港の海とくらしの史料館と連携して、サメ展を開催するので、ぜひ来館していただきたい。
（副会長）チラシでは、今の時代あまり届かないかもしれない。今はＨＰや町長のブログが、江府町では広報力が高いものではないか。自分の関心のあるものでなければ防災無線も届かない。ＨＰも、伝え

たいことが目立つように配置を工夫し、思わずクリックさせるインパクトを考えないと勿体ない。展示も毎回良く作っているが、果たして何人がこれを見るのかと思っている。口コミでも何でも、とにかく広報が大事な時代かと思う。

（委　員）ちょうど戦争展をしているときに、学校の生徒と一緒に来た。こんな近いところで、こんなに充実したものが見られるのだと感じた。図書館でもおもしろいことをしているというので、学校でも図書委員になりたいという子は増えている。４０代が増えているのはインスタの効果もあるのでは？　発信は良いことだと思う。

（２）奥大山江府学園学校図書館の現況について

①ブナの森校舎

（学校司書）昨年と比べ、利用冊数が増加している。イベントをすると一生懸命本を読んでくれ、先生の声掛けもあって、目標に向かって頑張る姿があった。（イベントとして）図書委員ものづくり教室を、児童が先生となって開催した。町立図書館と学校のつなぎ役として、担当の図書館職員が研修や合同ミーティングの案内をしてくれ助かった。学校間においては、図書館探偵イベントをブナ森と日野川で一緒に開催した。日野川では１２月まで、ブナ森では２月まで行う。今年度初めて、ポプラ社の全国ポップコンテストに参加した。日野川校舎６年生は授業で作成し、ブナの森校舎では文化委員と希望者に、学校司書がポップ教室を開催し、応募した。本を借りた数だけ玉入れをできる、色別対抗読書玉入れ大会を開催したところ、子どもたちが頑張っていた。学校間の展示でも、テーマに沿って、子どもが手に取ってくれるよう相談し連携・開催した。

②日野川校舎

（学校司書）第１回協議会でも言ったが、図書委員会のメンバーがしっかりしているので、委員会においては司書の出番はあまりなく、他の仕事ができた。３学期の図書館まつりにむけ、サポートしていこうと思っている。

（会　長）図書委員になりたい子が多いとのことだが、何人いるのか。

（委　員）１０人ほどで、文化委員というのだが、皆積極的に参加している。

（会　長）目標冊数を設定することは、しんどいと思う子はないか。

（学校司書）本が好きで、色別対抗読書玉入れ大会も、景品を目指して頑張っている。ブナ森は貸出冊数に制限があり、中には借りてすぐ返すという子もいたが、全体的に頑張っていた。

（会　長）ポップとは何か。

（委　員）日野川校舎では時程の都合上、朝読書の時間をなくしたのだが、これは良くなかったように思う。始業までの時間を各自の読書の時間に充てられるだろうと考えていたが、「朝読書」という１０分の時間がなくなったことで、貸出冊数は減った。

（３）書庫改装工事について

（事務局）今年度、備蓄倉庫を書庫として改修した。可動式書庫の収納量は約 7,000 冊。第１回協議会ではセミオープンという話もあったが、資料の保存という役割もあるので、書庫として扱う。書庫への立ち入りを希望する利用者には、書庫立入申込書を出していただく。職員が立ちあって資料を選んだ上で、図書館内への持ち出しは可能としたい。県立図書館の委員にも見ていただいたが、古い資料に関しては中性紙容器に入れて保管していく。

（会　長）リスト化するなどはしていくのか。

（事務局）システム上に登録し、見たいものは書庫から出して見ていただくようにする。現在の書庫内の湿度は 50 パーセント程度で、エアーコンディショナーについては常時運転はせず、湿度の様子を見ながら調整していきたい。

（会　長）レファレンスについてどう対応しているかの資料が第１回協議会ではあったと思うが、今回はない。図書館司書としては大事な住民との対話の業務であると考えられるので、分析が必要ではないか。昨年度、一昨年度と、数値の推移などはどうか。一般企業でもお客様相談室がしっかりしているところは信頼できる。

（事務局）年度当初に他の統計データとあわせて出している内容、数値を次回協議会で報告させていただきたい。。

（会　長）レファレンスについてまとめることは、自分たちの業務を考える良いきっかけになると思う。利用者による問い合わせを記録に残すのが大切だと思うので、どういった対応をしたかについて考えてみてはどうか。

（４）令和６年度視察研修について

（会　長）協議会から２名同行したことは、すごい事だと思う。

（事務局）広島県庄原市の書店を視察した。７月の鳥取県図書館大会で、店主佐藤さんが講演されたことがきっかけとなり、地域住民を大切にする姿勢について学ぶ機会とした。本を売るだけではなく、住民が困っていることがあれば本屋としてできることをする、そういう姿勢が図書館の参考にできた。店主ひとりだけでなく、店主の姿勢を本屋の店員が共有していたことも学びとなった。江府町から１時間程度の距離なので、ぜひ足を運んでみていただきたい。

（副会長）本屋ができることについて、町民全体としてはあまり評価が高くない印象だ。中学生は期待しているようだが、(今回の視察で) 本以外の部分で商売しているところは、江府町でも参考にできる。なんでもありの姿勢は良いと思う。良い勉強をさせてもらった。

（会　長）自分も本屋プロジェクトの会議に何度か参加した。図書館もあることだし、本屋が本当に必要なのか？と会議で質問したが、パン屋でもいい、町のハブになれば、とのことだった。中学生が期待している背景について、もっと話をするべきではないか。休日に行く場所がほしい、という気持ちもあるだろう。もう少し立ち止まって、しっかり考えて、多くの人の居場所にしていかなければ、何かおかしいのでは、と思う。地域に寄り添う姿勢は、図書館のレファレンスと同じで、何が地域に必要か考えなければ。研修で見てきたのはどういう上で成り立っているのか、よく考えて進めていただけたらと思う。

２　協議

（１）令和７年度図書館事業について

●令和７年度予算要求について

（事務局）来年度事業について、まだこれから決めていく段階なので、いろいろ意見を伺いたい。予算は資料費３００万円で要求している。以前から授乳室については協議会からお話をいただいていたが、利用が少ないという実態があり、予算を要求するほど見通しが立てられず、保留した。

●駅前交流施設との連携について

（事務局）駅前本屋は詳細未定ながら、図書館としては何らかの連携が取りたいと考えている。今のところ、貸出スポット、返却スポット、ついでにお立ち寄りスポットなどを考えている。視察研修にも総

務課から２名同行があったこともあり、担当部署とは連携して情報交換していけたらと思っている。
（会　長）職員数の増、毎週の休館日の設置など、図書館協議会からも職員の労働環境改善が進められ、書庫改修も実現した。本屋もできたら連携も大切。鳥取県中部にある汽水空港という本屋は、今の形になるのに１０年かかったとのこと。本屋は、「やりたい」という人の思いがあってこそスタートする。ただ本屋の形を作るだけでなく、人の思いが無ければうまくいかないのでは。
（委　員）遠藤さんの珈琲講座は大人向けの講座だが、いわゆるまちゼミというものが各地で開催されている。それを図書館がやるのはおもしろい取り組みだ。今後も続ければ新しい利用者の開拓になるかと思う。参加者に、開催講座関連の図書のリストを渡すことで、読んでもらう機会を作ってみてはどうだろうか。
（会　長）購入資料の選定はどのようにしているか
（事務局）視察で勉強になった点として、来店者の動きに合わせて柔軟に棚配置、内容を変更している点。また、朝必ず棚をチェックするそうで、買われなくても、一度は手に取られた跡がある本を確認し、今後につなげるとのことだった。ニーズを探って選書に活かすことは大事なので、図書館でまったく同じようにするのは難しいが、考え方として参考にはできる。
（会　長）あるものをうまく活用して、窓口が小さくても住民との関係性を大事にしてほしい。
３　その他
（会　長）図書館協議会の議事録を公開してはどうか。
（委　員）そもそも、この会は公開か。
（事務局）議事録・図書館協議会とも現在公開していない。
（会　長）公開しても良いのではないか。
（事務局）教育委員会とも相談の上、次回協議会で、改めて報告したい。
（委　員）江府町の本屋の件については、新聞社も注目している。図書館協議会を公開とすると、傍聴に来る可能性もあるので、話ができるように準備をしておくと良い。
（会　長）大人向けの講座を増やしていくことも課題としてあるが、たくさんあればよいというものでもないと思う。学校図書館では、第１回協議会で話のあったコマーシャル動画などは作ったのか。
（学校司書）まだ作っていない。
（会　長）学校の動画、図書館のインスタについて、次回協議会で実際に見せてもらえないか。
（事務局）学校の動画は、個人情報等もあるので、確認を取りたい。
（会　長）行政資料の保存についてもぜひ進めていただきたい。
（事務局）行政資料については、他館の状況を聞き取りした。予算書、決算書、議会の議事録などを保存しているとのことだった。本館については、書庫の収容にも限りがあり、年々増える資料なのでルールを決めていく必要があると感じている。総務課が町報や町史などのデジタル化をすすめているところなので、デジタルとの連携も考えていくべきかと思う。
（委　員）デジタルパスファインダーを作成するという方法もある。
（会　長）移住者のためのパスファインダー、ウェルカムコーナーのように作ってみてはどうか。地域おこし協力隊の活動の一環として、図書館友の会と連携してコーヒーの提供が始まる。飲食ができるのは、やはり良い。
（委　員）今、図書館をめぐる大きな動きがあるのでご紹介する。「図書館・学校図書館の運営の充実に

関する有識者会議」が開催される。「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」や、「学校図書館ガイドライン」「学校図書館図書標準」が変わる可能性がある。読書バリアフリー、ギガスクール、など現代の状況にあわせて、学校図書館、公共図書館の在り方が変わっていくので、ぜひ注目していただきたい。パブリックコメントなど、現場の目線で寄せていただけたらと思う。

4　閉会